

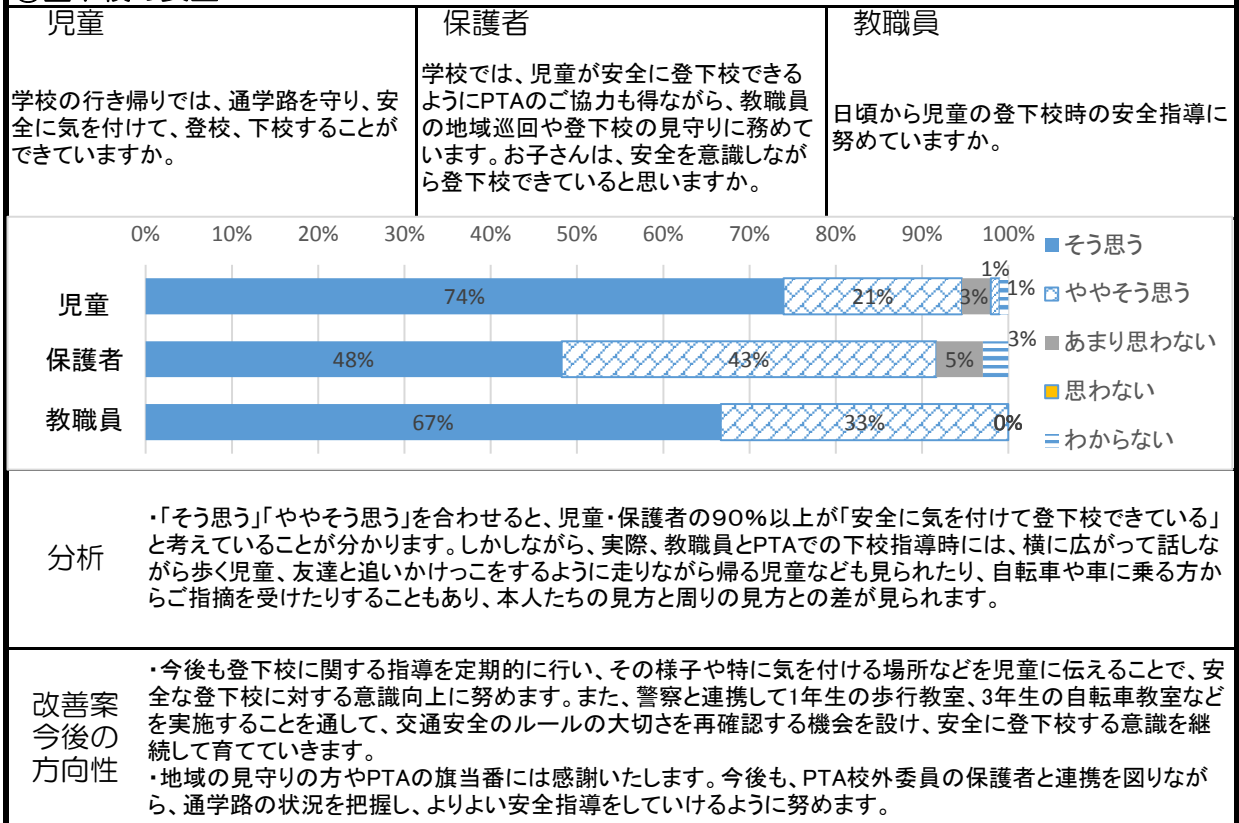
令和3年度 学校評価アンケート結果分析

12月に実施しました学校評価アンケートの結果を保護者・地域の皆様にご報告をいたします。
 今年度の教育活動について、学校教育目標実現に向けた3つの柱「健やかな体 心身ともにたくましい子」「確かな学力 進んで学び合う子」「豊かな心 認め合い 助け合う子」の視点から分析し、今後の取組について検討いたしました。多くの保護者の皆様からアンケートの回答をいただき、ご協力に感謝申し上げます。

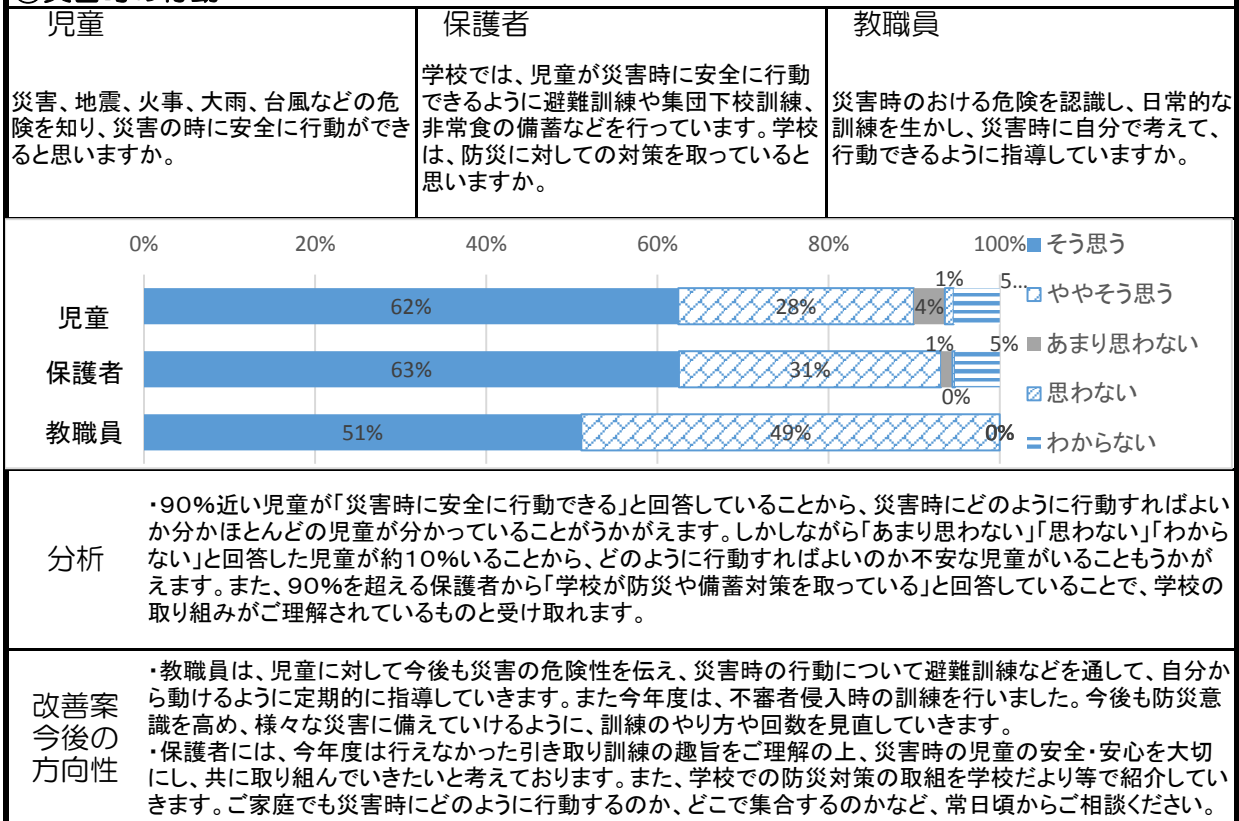
健やかな体 心身ともにたくましい子

①日吉の子のやくそく																											
児童	保護者	教職員																									
学校は「日吉の子のやくそく」をもとに学校生活におけるルールを決めています。やくそくを理解し、学校のルールを守って生活していますか。	学校では「日吉の子のやくそく」をもとに学校生活におけるルールを共通理解しながら子どもたちに指導しています。お子さんに学校生活のルールが身に付いてきていると思いますか。	「日吉の子のやくそく」をもとに、基本的な学習ルール、生活のルールを守る指導をしていますか。																									
<table border="1"> <caption>①日吉の子のやくそく 回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまり思わない</th> <th>思わない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>53%</td> <td>36%</td> <td>4%</td> <td>2%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>53%</td> <td>41%</td> <td>3%</td> <td>1%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>76%</td> <td>24%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	わからない	児童	53%	36%	4%	2%	5%	保護者	53%	41%	3%	1%	2%	教職員	76%	24%	0%	0%	0%
対象	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	わからない																						
児童	53%	36%	4%	2%	5%																						
保護者	53%	41%	3%	1%	2%																						
教職員	76%	24%	0%	0%	0%																						
分析 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のルールを守る児童や身についてきていると感じている保護者が約90%となっています。コロナ禍の中、児童は、学校生活のルールを守ろうとしながら過ごしていました。また、保護者もそう実感していると考えられます。 ・「ルールを守っているかどうかあまり思わない」「思わない」「わからない」と回答している児童が約10%います。今までのルールに加え、GIGA端末のルールや新しい生活様式のルールなど、次々と新しいルールができることについていけないことも考えられます。 																											
改善案 今後の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の児童の学校生活や学期に2回程度行う生活ふりかえりカードの実態をもとに、「日吉の子のやくそく」に則した指導を日常生活の中で継続していきます。そのためには、児童一人一人ルールを理解し、守ることの良さが感じられるように、教室に掲示してある「日吉の子のやくそく」をもとに、学級指導の際に具体例を紹介するなどの指導が必要と考えます。 ・保護者には、引き続き「日吉の子のやくそく」をご理解いただくように各家庭に配付したり、学年だよりで児童の様子をお伝えしたりしていきます。 																											
②進んであいさつ																											
児童	保護者	教職員																									
すすんで気持ちの良いあいさつをおこなっていますか。	学校では児童指導の重点目標として「あいさつをしよう」に取り組んでいます。お子さんはあいさつを進んでいると思いますか。	自らが元気なあいさつを心掛け、あいさつが進んでできるよう指導をしていますか。																									
<table border="1"> <caption>②進んであいさつ 回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまり思わない</th> <th>思わない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>52%</td> <td>32%</td> <td>10%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>33%</td> <td>43%</td> <td>16%</td> <td>2%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>71%</td> <td>29%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				対象	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	わからない	児童	52%	32%	10%	3%	2%	保護者	33%	43%	16%	2%	5%	教職員	71%	29%	0%	0%	0%
対象	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	わからない																						
児童	52%	32%	10%	3%	2%																						
保護者	33%	43%	16%	2%	5%																						
教職員	71%	29%	0%	0%	0%																						
分析 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「あいさつをしている」と回答している児童が80%を超えていることから、多くの児童があいさつを意識していることがわかります。一方、「あまり思わない」「思わない」と回答している児童は、あいさつすることへの意識の低さだけでなく、大きな声を出したくないという抵抗感もあることが考えられます。 ・保護者の回答は昨年度とほとんど変化がなく、保護者から見る児童の状況はあまり変わっていないと捉えていることが伺えます。 																											
改善案 今後の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつをしよう」という年間重点目標を設定し、今年度と同様に、年間を通して、異学年によるあいさつ運動を実施し、日常生活の中であいさつすることの良さが実感できるような取り組みを継続的に行っていくことが必要と考えます。また、どのようにするとあいさつが増えるのか、児童からのアイデアも取り入れた活動も検討していきます。 ・道徳などの学習活動の中であいさつの意義や良さについて考えることで、児童が校内や地域の方に進んであいさつできる態度を育てていきます。 																											

③登下校の安全



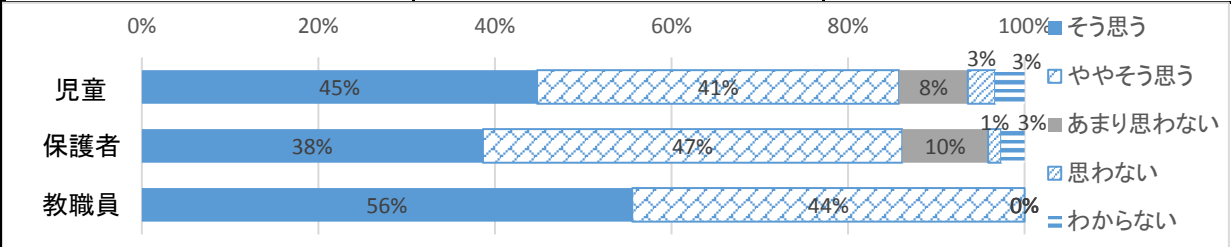
④災害時の行動



確かな学力 進んで学び合う子

⑤学習の振り返り

児童	保護者	教職員
<p>1～3学習の後に、「どんなことをがんばったか」「どんなことができるようになったか」などと、じぶんの学習をふりかえることができますか。</p> <p>4～6「何ができたか」「なぜできなかったか」など、自分の学習を振り返り、その後の学習に生かそうとしていますか。</p>	<p>学校では、学習の定着を図ったり、次へのめあてを持たせるために、振り返りを大切にしています。お子さんは、学習の積み重ねができていますか。</p>	<p>身に付けさせたい資質と能力を明確にし、ねらいを明確にした指導と評価を行っていますか。</p>

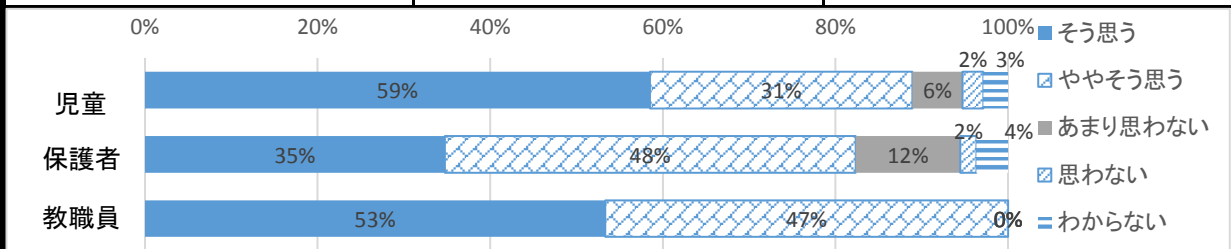


分析 児童では学習を振り返ることができていると「そう思う」もしくは「ややそう思う」が80%を超えていることから学習の終末に振り返りををすることが習慣化されてきていることが分かります。また教員は、学習の定着を図ったり、次への課題をもたせるためには、振り返りが有効だと感じて取り入れていることが分かります。ただ、保護者の立場において、子どものノートの記述だけでは、お子さんが「正しく」振り返ることができているかどうかは、見えづらい部分であると考えられます。

改善案 今後の方向性 ノートに振り返りを書くことは定着してきていますが、内容が感想に近いまめになってしまっていることもあります。そこで、振り返りの視点を与えることで理解したことと問題点や疑問点を明確にし、学習の定着を図っていきたいと考えます。また、学習の終末だけでなく、授業の適切な場面で振り返りを行うなど、振り返りを活用し、そのねらいを児童や保護者にも伝えていきたいと考えます。

⑥学習の取り組み方

児童	保護者	教職員
<p>1～3めあてをもって進んで学習し、最後まであきらめずに問題に取り組んだり、作品を作ったり、練習したりしていますか。</p> <p>4～6学習のめあてを意識して、課題や問題に進んで取り組んだり、最後まであきらめずに考えたりやり方を工夫したりしていますか。</p>	<p>学校は、授業のめあてを意識して主体的に学習できる授業づくりに努めています。お子さんは、自分から課題に取り組んだり、最後まであきらめずに取り組んだりしていると思いますか。</p>	<p>自分が担当する児童の学習状況を見取り、主体的に学習に取り組めるよう、指導計画を考えたり授業準備をしたりしていますか。</p>

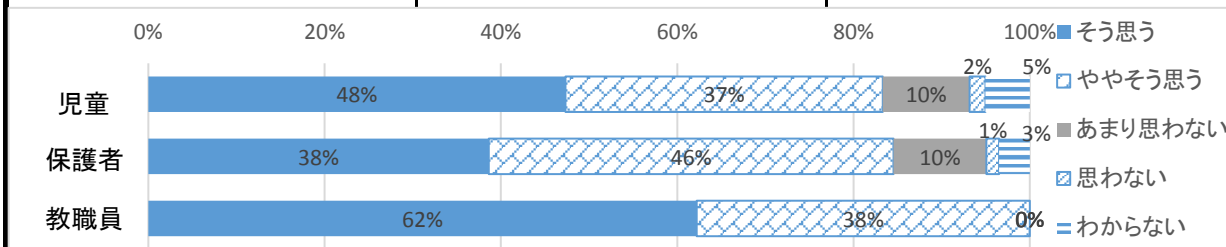


分析 児童の主体的な学習の取り組みが90%というとても高い数値となっています。本校の研究テーマである「自ら進んで学び合う子」を目指して、児童の興味関心を引き起こすような手立てを多く取り入れた学習を展開してきた成果でもあると考えます。また教職員は、じっくり教材研究を行い、試行錯誤しながら学習を進めたことで、その手応えを感じていると考えられます。保護者においては、昨年同様コロナ禍で授業参観の機会が少なかったことで、児童自身が思うよりも「まだできていない」と厳しく見ているのかもしれない。

改善案 今後の方向性 国語の研究だけでなく、どの授業においても、学び方の定着という点で大きな成果を得ることができたと考えています。今後も他の教科も含め、継続して児童の興味関心を引き起こすような手立てを多く取り入れた学習を展開していきます。また、授業参観の機会の少ないコロナ禍でも、学習の様子や成果が分かるように、学年だより、学校だより等でお知らせし、さらに学習の様子なども見られるようなGIGA端末の活用も考えていきたいと考えています。

⑦学び合い

児童	保護者	教職員
<p>1～3 人の話をしっかり聞き、感想を言ったり質問をしたりすることができますか。</p> <p>4～6 人の話を聞くと「その人の伝えたいこと」が分かり、自分の考えをもつことができますか。</p>	<p>学校では、友だちとの学び合いを大切にしています。お子さんは、大切なことを聞き取ったり、自分の思いを書いたり話したりすることができますか。</p>	<p>児童同士の関わりの中で伝え合いを通して、表現力を高め、あたたかな聴き方、やさしい話し方ができるような指導を行っていますか。</p>



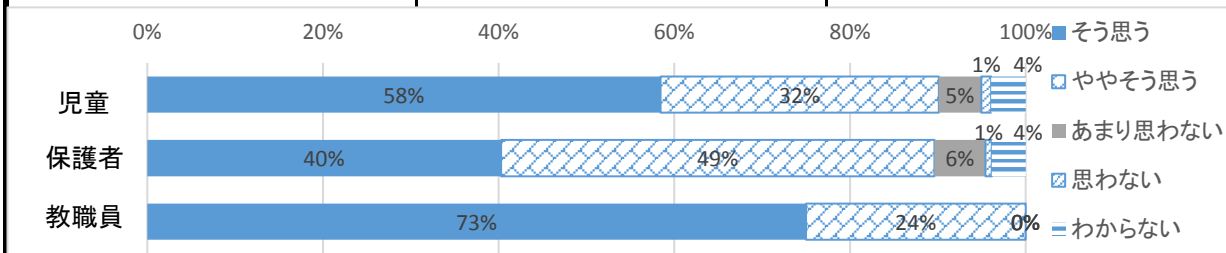
分析
 児童・保護者ともに、「そう思う」「ややそう思う」の回答が80%を超えています。学習の中で協働する活動を大切にしてきたことや、川崎市の国語科研究推進校として表現力の育成を継続的にねらってきたことの効果が現れていると感じます。また、あたたかな聴き方・やさしい話し方が少しずつ定着し、伝え合いに必要なスキルも少しずつ定着してきたと考えられます。一方で、低中学年に比べて高学年の値が低くなっていました。課題を自分事として捉えたり、相手意識をもったりすることができていない児童もいることが伺えます。

改善案 今後の方向性
 今後も継続して協働的な学びを多く取り入れ、自分の思いを伝えたり大切なことを聞き取ったりしていく力を育てていきます。そして、GIGA端末も活用しながら、話し合いだけでなく多様な交流の方法を取り入れ、考えを表現することへの意欲を高めていきます。そのために、教員も児童が様々な形で関われる方法を学び、授業の中で積極的に活用していけるようにしていきます。あたたかな聴き方・やさしい話し方は次年度も継続して取り組み、伝え合いに必要なスキルアップに努めます。

豊かな心 認め合い 助け合う子

⑧友だちとの関わり

児童	保護者	教職員
<p>どの友だちも大切にして、同じように助けたり、優しい言葉をかけたりしていますか。</p>	<p>学校では、共生 * 共育プログラムや道徳を通して、子ども同士の関わりを大切にしながら望ましい人間関係の形成に努めています。お子さんは他者の気持ちを考えた行動が身に付いてきていると思いますか。</p>	<p>授業や学級活動などで友達と助け合った場面を価値づけ、一人ひとりが温かい人間関係を築けるよう指導していますか。</p>

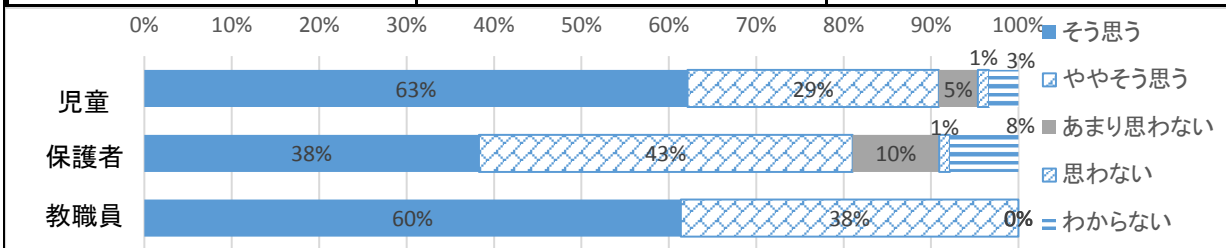


分析
 ・保護者、児童の回答で、約90%が「そう思う」「ややそう思う」と答えています。学年別に見ても回答の差はほとんどなく、全体的に他者へ対しての温かい関わり方が身に付いてきていると考えられます。
 ・自己理解・他者理解等について学習するかわさき共生 * 共育プログラムを計画的に実施していることから、学習の積み重ねができていていると思われれます。

改善案 今後の方向性
 ・アンケートでは、児童がそれぞれ他者に対し温かい関わりができていることが結果として出てきていますが、それがとてもいいことである価値づけを行い、日吉小のみんなが「優しい気持ちの持ち主」であることを意識・自覚できるように今後も指導を行っていきます。
 ・共生 * 共育プログラムについて、保護者の方にもどのようなものであるかお伝えし、学校で行っている指導をより知っていただくように広報に努めます。

◎役割への取り組み方

児童	保護者	教職員
学校生活をよりよくするために、当番や係・委員会などの自分の役割を進んでこなっていますか。	学校では、委員会活動、学級活動、異学年交流等の中で、子どもたちの自主的・自立的な態度が育つよう支援してきました。お父さんは、自主的に学校生活をよりよくしようとする姿勢が育ってきていると思いますか。	学校生活の様々な場面で児童が自主的に活動できる場を設け、自主的に行えたことを価値付け、さらに意欲をもって取り組めるよう指導していますか。



分析

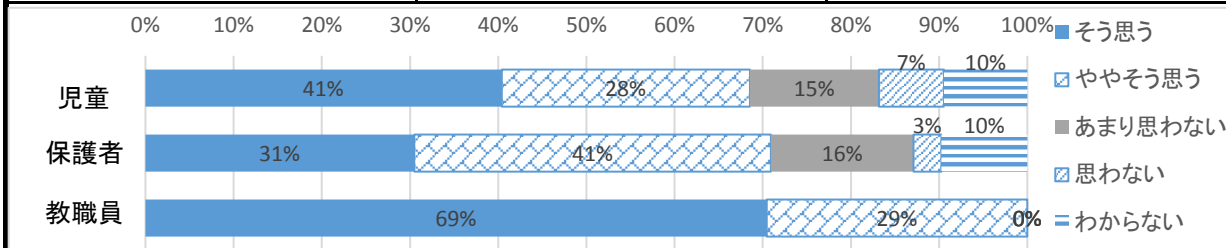
- ・全体の約90%の児童が、学校生活向上のために頑張っていると回答しています。今までとは違う学校生活の中でも、子どもたちは豊かな学校生活を送るために自分たちでできる活動は何かを考え、工夫して行い、充実した生活を送っていかうとしていることが考えられます。
- ・保護者の回答は、児童の回答と比べて「そう思う」の割合が少なくなっています。児童の様子を伝える授業参観が実施できなかったことをはじめ、知っていただく機会が少なかったためと考えます。

改善案 今後の方向性

- ・主体的に学校生活をより良くしようと、自ら考え行動できるように、またそのような主体的な学びをお互いに認めていけるような児童の育成に今後も努めていきます。相手意識をもたせた活動を今後も展開できるようにしていきます。
- ・当番や係活動、児童会活動、委員会活動、異学年交流など、低学年から一人一人の児童が意欲をもって活動できるよう、教職員で情報交換を取りつつ取り組みを進めていきます。またその様子は、個人面談、学年だより、ホームページ等で伝え、保護者にも理解していただけるように努めます。

⑩教育相談

児童	保護者	教職員
もし気になることや心配なことがあるとき、担任の先生や他の先生に相談することができると思いますか。	学校では児童支援コーディネーターを中心とした支援体制の充実をはかり、児童理解を深めることに努めています。お父さんは、気になることや心配なことがあるとき、担任または教職員に相談することができると思いますか。	児童や保護者からの相談を真摯に受け止め、学年内で情報を共有しながら、児童の困り感に寄り添った対応ができていますか。



分析

- ・「相談できる」と回答している児童が、前年度より増え、70%近くになりました。学年が上がるごとにポイントは減少傾向にあるのですが、担任やその他の教職員に対し、信頼感をもつ児童が増えてきたのではないかと考えられます。また、その背景には、各学年で交換授業を行い、学年間で児童を見ていく体制を取り入れたことで、担任だけでなく様々な教職員に話しかけやすくなったことが関係していると考えています。
- ・児童や保護者の回答結果と教職員の回答結果に大きな違いが見られますが、今年度も教職員は常に児童や保護者からの相談を真摯に受け止めて対応していきたいという意識をもってしています。

改善案 今後の方向性

- ・深い児童理解のためにも、交換授業は有効であると考えていることから、発達段階に応じた方法で交換授業を今後も取り入れていきます。また、日頃から困ったことがあれば担任だけでなく学年の先生や児童支援コーディネーター等にも相談できることを児童に知らせ、相談しやすい雰囲気づくりを行っていきます。
- ・「学校生活に関するアンケート」はもとより、日頃の児童の様子を見て状況を察知する意識を教職員で再確認し、声かけを行っていきます。
- ・児童支援コーディネーターを中心とした相談体制の充実を図り、家庭からの気になることについて保護者との連携を深めていくことに努めます。また、専門機関と連携し、より適切な対応ができるようにしていきます。